

# 第1回 獣医学生 アイデアコンテスト

名前/チーム名： 水野 真孝

学校名： 日本大学

タイトル： 今日からあなたがペットシッター!? ～皆でお世話する院内ペット～

初心者 🍷 大歓迎!

解決したい現状の課題とその理由： 「高齢化社会におけるヒトと動物の関係」と「ペット業界の活性化」

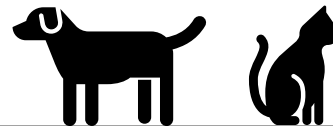
## 【アイデアの詳細】

### “ヒトの高齢化”

- ・ ペットを飼いたくても飼えない
- ・ 自分の健康への不安

### “飼育知識”

- ・ 長生きしてもらうためにできることは？
- ・ 生き物を飼ったことがなく不安



触れ合い

院内飼育ペット

コミュニティ

- ・ 再び動物と触れ合うことが可能に
- ・ アニマルセラピーによる健康維持/増進

→ヒトの精神的/身体的健康への貢献

- ・ 飼育ノウハウの共有
- ・ 飼育への具体的なイメージの構築

→適正飼育・新規飼い主の開拓

## 1. 背景

“超高齢化社会”を迎えている日本では、ペットの飼育経験がある人でも、自身の年齢から新規飼育を諦めてしまうケースは少なくない。また、ペットを飼ってみたいと考えても、「何から準備し、どんな知識が必要か」が分からず、一步を踏み出せない場合も多いだろう。ここで、ヒトと動物を繋ぐ新たなシステムを提案する。

## 2. 地域の皆でお世話する院内ペット

駅や宿で見られる看板猫のように、動物病院内で来院者が会えるペットを飼育し、そのお世話を“地域参加型”にする。「動物との触れ合いの場」「情報共有の場」「ペット飼育体験」の提供サービスである。

想定される効果として、高齢の方が再び動物と触れ合うことができ、飼育未経験者に飼育経験を教える生きがいも生まれる。さらに、アニマルセラピーによってヒトの健康に奉仕する社会貢献度の高いサービスとしても期待される。

コミュニティ形成による飼育ノウハウの蓄積も大きな効果だ。自身のペットの経験談も交えた飼い主同士の情報共有により、疾病予防意識の高まりが予想される。飼育未経験者にとっても、先輩飼い主の経験談や院内ペットのお世話を通じて、ペット飼育の方法論を学ぶことができ、飼育への不安感の軽減がなされる。これにより、新規飼育者の増加が見込まれる。また、ペットの飼育体験は、地域の子供への動物愛護精神の育みにも繋がるだろう。

このシステムは、動物病院にポジティブな印象を持たせることで足を運びやすくし、定期健診に繋げやすくする効果も期待される。適正飼育の広がりにより、動物の幸せも増すことだろう。

## 3. 展望、課題

具体的なプランとして、介護施設や保護猫サロンとの連携・併設が考えられる。一方課題として、ヒトや動物の院内感染やコミュニティ内での誤情報の拡散といったリスクが挙げられる。